

EU



1 農畜産業の概況

EUは、加盟国（2015年時点28カ国）全体で国土全体の約40%となる1億7461万ヘクタールの農用地面積を有し、農業経営体数は1084万戸、1戸当たり農用地面積は16.1ヘクタールである（表1）。2015年のGDPに農業が占める割合は前年並みの1.4%であった。

2015年の農業生産額は、3985億5311万ユーロと前年を4.0%下回った。このうち、約4割に相当す

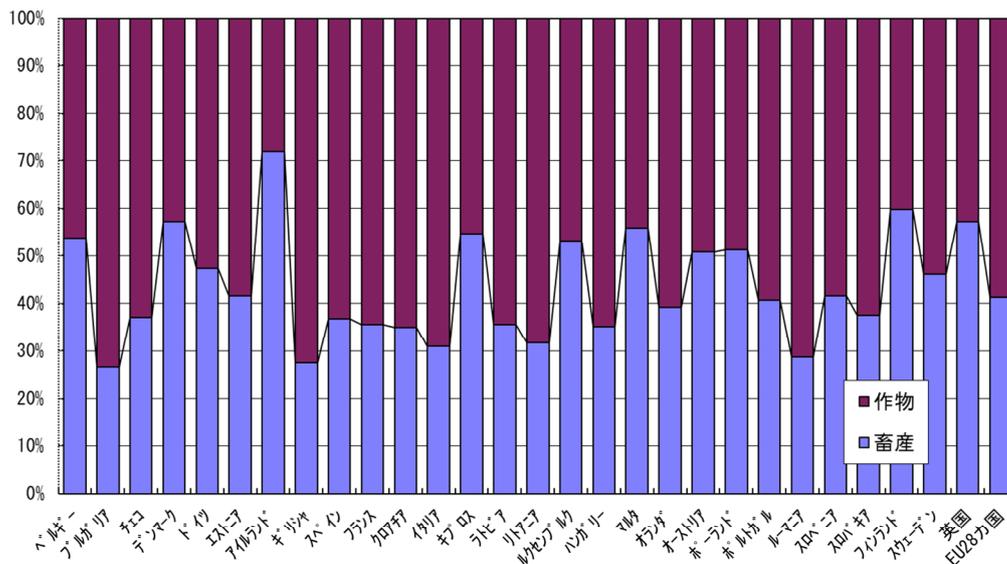
る1643億6474万ユーロを畜産が占めており、EU農業の主要部門となっている（図1）。畜産の内訳を見ると、生乳が521億9572万ユーロ（農業全体の約13%）、牛肉・子牛肉が343億1590万ユーロ（同約9%）、豚肉が337億9346万ユーロ（同約9%）、卵・家きんが315億8482万ユーロ（同約8%）となっている。

表1 主要農業経済指標

国名/区分	農用地面積	農業労働人口	農業経営体数	1戸当たり農用地面積	農業生産額
	(千ヘクタール)	(千人)	(千戸)	(ヘクタール)	(百万ユーロ)
	2013年	2013年	2013年	2013年	2015年
ベルギー	1,307.9	56.7	37.8	34.6	8,082.1
ブルガリア	4,650.9	320.2	254.4	18.3	3,915.1
チェコ	3,491.5	105.1	26.3	133.0	4,542.6
デンマーク	2,619.3	53.2	38.3	68.4	10,081.3
ドイツ	16,699.6	522.7	285.0	58.6	51,046.8
エストニア	957.5	22.1	19.2	49.9	876.4
アイルランド	4,959.5	163.7	139.6	35.5	7,390.6
ギリシャ	4,856.8	463.9	709.5	6.8	9,963.0
スペイン	23,300.2	813.6	965.0	24.1	44,300.6
フランス	27,739.4	724.7	472.2	58.7	72,839.5
クロアチア	1,571.2	175.1	157.4	10.0	2,218.3
イタリア	12,098.9	816.9	1,010.3	12.0	51,060.0
キプロス	109.3	16.6	35.4	3.1	661.2
ラトビア	1,877.7	82.1	81.8	23.0	1,281.6
リトアニア	2,861.3	144.8	171.8	16.7	2,717.7
ルクセンブルク	131.0	3.5	2.1	63.0	372.7
ハンガリー	4,656.5	433.7	491.3	9.5	7,853.7
マルタ	10.9	4.5	9.4	1.2	120.9
オランダ	1,847.6	153.3	67.5	27.4	25,899.2
オーストリア	2,726.9	111.2	140.4	19.4	6,364.6
ポーランド	14,409.9	1,918.6	1,429.0	10.1	22,225.7
ポルトガル	3,641.6	323.5	264.4	13.8	6,905.6
ルーマニア	13,055.9	1,552.6	3,629.7	3.6	14,015.7
スロベニア	485.8	82.5	72.4	6.7	1,263.6
スロバキア	1,901.6	50.6	23.6	80.7	2,044.0
フィンランド	2,282.4	57.6	54.4	42.0	3,791.7
スウェーデン	3,035.9	59.3	67.2	45.2	5,766.7
英国	17,327.0	274.5	183.0	94.7	30,952.2
EU28カ国	174,613.9	9,506.4	10,838.3	16.1	398,553.1

資料：欧州委員会「Eurostat」

図1 農業生産額に占める畜産のシェア（2015年）



資料：欧州委員会「Eurostat」

2 畜産の動向

(1) 酪農・乳業

国際連合食糧農業機関（FAO）によると、2015年のEU（加盟28カ国）の生乳出荷量は、1億5172万トンと全世界（約7億8899万トン）の約2割を占めている。これは、単一国としては世界最大となる米国の約1.6倍の量に相当する。EUは、牛乳乳製品の自給率が114%と純輸出国であり、国際乳製品市場に大きな影響力を持っている。

また、米国農務省（USDA）によると、2015年の世界の乳製品貿易量に占めるEUの割合では、チーズが40%となり、ロシアが2014年8月から実施している農畜産物の禁輸措置などの影響により輸出量は減少傾向にあるものの、引き続き主要輸出品となっている。同じくバターは20%、脱脂粉乳は33%であった。

2015年は、同年3月末の生乳生産割当（クォータ）制度廃止を契機とした生産者の増産意欲の高まりなどにより、生乳出荷量は前年比2.2%増となった。これに伴い乳製品の生産量も増加した。

一方、2015年の生乳生産者価格および乳製品価格は、生乳出荷量の増加と、EU最大の乳製品輸出先であったロシアが2014年8月から講じている禁輸措置

の影響および国際市場の停滞などにより低迷した。

① 主要な政策

ア 生乳生産割当（クォータ）制度

EUは、1984年以降、国ごとに生乳生産量の枠（クォータ）を割り当て、クォータを超過した場合、一定額の課徴金を課すとともに、加盟国内の農家間での売買などを認める生産割当（クォータ）制度を実施してきた。

同制度は、2008年11月に合意した「ヘルスチェック」（共通農業政策（CAP）の中間検証作業）に基づき、2015年3月末で廃止され、生産者は自由に生産できることとなった。

イ 乳製品の介入買い入れ

EUは、バターおよび脱脂粉乳の介入買い入れを通じた価格支持により、間接的に生乳生産者価格を支持している。介入価格は、2003年のCAP改革に基づき、段階的に引き下げられている。

バターは、各年3月1日～9月30日の間、市場価格が介入価格（100キログラム当たり221.75ユーロ）

を下回った場合、加盟国の介入機関を通じて一定規格のものを買い入れる。なお、当該年の介入買入数量が3万トンに達した場合は、入札により買い入れが実施できることとなっている。

また、脱脂粉乳は、各年3月1日～9月30日の間、加盟国の介入機関が介入価格（100キログラム当たり169.80ユーロ）で一定規格のものを買い入れる。買入限度数量の10万9000トンに達した場合、入札により買い入れが実施できることとなっている。

ウ 民間在庫補助

2014年以降の新たなCAPでは、バター、脱脂粉乳およびチーズを対象に、大幅な価格の下落など欧州委員会が必要と認めた場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費の補助が行われる。

エ 輸出補助金

EUには、乳製品の国際競争力を高め、輸出を促進するため、チーズ、バター、脱脂粉乳などの輸出に対して輸出補助金を交付する制度がある。輸出補助金の単価は、域内の市場価格と国際価格との差に基づき、品目ごと、輸出先ごとに販売・輸送コストなどを勘案して設定される。なお、2010年以降は、全ての乳製品で輸出補助金の発動はない。

オ 域内消費の促進

乳製品に関連した補助として、牛乳やチーズなどの学校給食用消費などに対する補助が行われている。

② 生乳の生産動向

ア 酪農経営体数

EUの酪農経営体数は、景気の低迷や大規模化などを背景として小規模層を中心に減少傾向にあり、2013年は148万戸と、前回調査（2010年）から15%減少した（表2）。

表2 酪農経営体数、乳用経産牛飼養頭数および1戸当たり飼養

区分／年	頭数の推移 (単位：千戸、千頭、頭/戸、%)					増減率
	2011	2012	2013	2014	2015	
酪農経営体数	-	-	1,484.7	-	-	-
経産牛飼養頭数	23,053	23,193	23,488	23,559	23,594	0.1
1戸当たり経産牛飼養頭数	-	-	15.8	-	-	-

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：経産牛飼養頭数は、各年12月末現在のもの。

注2：2012年まではEU27カ国。2013年以降はEU28カ国。

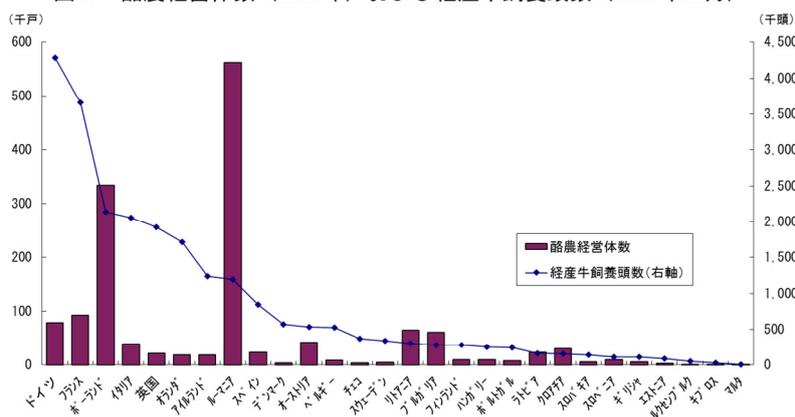
イ 飼養頭数

経産牛飼養頭数は、クォータ制度の廃止を見据えた生乳の増産意欲の高まりなどから、増加傾向で推移してきたが、2015年は前年並みの2359万頭となった。

国別で見ると、頭数の多い順に、ドイツ428万頭、フランス366万頭、ポーランド213万頭、イタリア206万頭、英国192万頭、オランダ172万頭、アイルランド124万頭となり、これら7カ国でEU全体の約7割を占める（図2）。

2013年の1戸当たり経産牛飼養頭数は15.8頭で、2010年から16%増加した。国別では、1戸当たり経産牛飼養頭数の最も多いのがデンマークの155頭であるのに対し、ルーマニアは2.1頭、ブルガリア、リトアニアはともに4.6頭であり、加盟国間の差が大きい。

図2 酪農経営体数（2013年）および経産牛飼養頭数（2015年12月）



資料：欧州委員会「Eurostat」

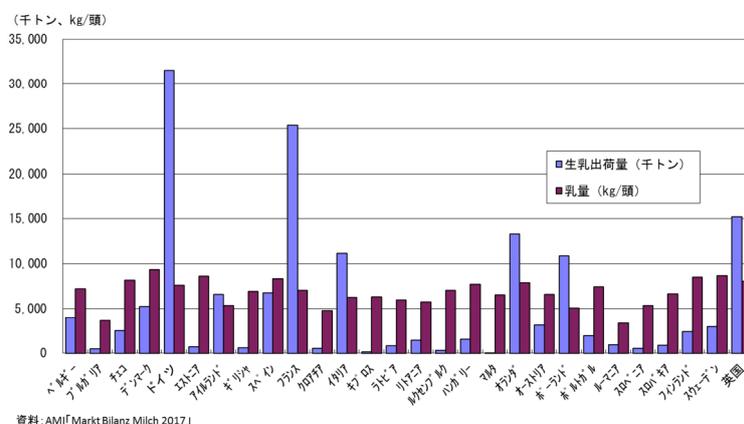
ウ 経産牛1頭当たり乳量

2015年の経産牛1頭当たり乳量は、6923キログラムとなった。ただし、第1位のデンマークの9361キログラム、第2位のスウェーデンの8709キログラムに対し、下位にある東欧圏のブルガリア、ルーマニアはそれぞれ3000キログラム台となっており、加盟国間での差は大きい(図3)。

エ 生乳出荷量

2015年の生乳出荷量は、前年比2.2%増の1億5172万トンとなった。国別では、出荷量の多い順に、ドイツ3188万トン、フランス2538万トン、英国1519万トン、オランダ1333万トン、ポーランド1087万トン、イタリア1064万トン、スペイン672万トン、アイルランド659万トンとなり、これら8カ国でEU全体の生産量の約8割を占める。このうち、アイルランド(前年比13.2%増)、オランダ(同6.9%増)が全体の増加をけん引した。

図3 生乳出荷量および経産牛1頭当たり乳量(2015年)



③ 牛乳乳製品の需給動向

ア 飲用乳

2015年の飲用乳(乳飲料、ヨーグルトなどを含む)生産量(販売量)は3106万トンで、1人当たり飲用乳(同)消費量は平均で59.9キログラムと前年から減少した(表3)。

表3 1人当たり年間飲用乳消費量の推移

(単位: kg/人、%)

国/年	2011	2012	2013	2014	2015	増減率
ベルギー	51.6	50.5	49.3	51.2	49.3	▲ 3.7
ブルガリア	20.5	20.2	20.7	19.4	19.1	▲ 1.5
チェコ	52.6	58.5	60.4	60.0	60.4	0.7
デンマーク	88.4	90.9	90.8	89.7	87.6	▲ 2.3
ドイツ	53.5	52.0	52.7	54.7	52.8	▲ 3.5
ギリシャ	51.6	49.5	46.3	46.7	-	-
エストニア	107.1	115.6	122.3	118.5	102.3	▲ 13.7
スペイン	84.0	83.2	83.6	79.8	80.5	0.9
フランス	55.8	54.2	54.4	53.0	51.5	▲ 2.8
アイルランド	123.2	121.2	118.4	118.4	122.7	3.6
イタリア	57.2	55.7	53.5	50.2	47.8	▲ 4.8
クロアチア	78.4	73.5	63.6	67.4	58.2	▲ 13.6
ラトビア	35.1	36.5	37.6	40.1	42.6	6.2
リトアニア	28.5	29.4	32.0	33.7	33.8	0.3
ハンガリー	48.6	50.6	50.5	48.3	50.5	4.6
オランダ	49.6	49.4	47.6	45.5	45.5	0.0
オーストリア	79.6	78.2	76.9	76.7	76.4	▲ 0.4
ポーランド	42.4	36.3	39.4	38.6	38.9	0.8
ポルトガル	80.3	81.0	78.7	78.4	-	-
ルーマニア	11.9	12.1	12.1	13.2	-	-
スロバキア	52.2	54.4	49.4	48.5	48.9	0.8
フィンランド	131.1	132.4	131.4	128.6	125.3	▲ 2.6
スウェーデン	91.8	91.9	91.8	85.4	84.9	▲ 0.6
英国	107.4	106.3	106.4	105.0	102.3	▲ 2.6
EU27カ国/ EU28カ国	62.8	62.4	62.1	61.7	59.9	▲ 2.9

資料: AMI「Markt Bilanz Milch 2017」

注1: 2015年は暫定値。

注2: 2012年まではEU27カ国。2013年以降はEU28カ国。

イ バター

EUは、インドに次ぐ世界第2位のバター生産地域であり、USDAによると、世界の生産量(989万トン、2015年)の2割以上を占める。

2015年のバター生産量(バターオイルを含む)は、前年比3.6%増の228万トンとなった(表4)。生乳生産量の増加と、EU域内外の需要の高まりなどが要因である。主な生産国は、ドイツとフランスであり、2カ国で約5割を生産する(図4)。

2015年のEU域外輸出量は、同20.3%増の18万トンとなった。主な輸出先は、米国やサウジアラビア、エジプトである。2014年8月からのロシアの禁輸による減少分を、他の輸出先で補っている。なお、域外からの輸入量は2万トンであった。

表4 バター需給の推移

(単位：千トン、%)

区分/年	2011	2012	2013	2014	2015	増減率
生産量	2,070	2,105	2,090	2,195	2,275	3.6
うち乳業工場	2,047	2,078	2,069	2,178	2,255	3.5
農家	23	27	21	17	20	17.6
輸入量	45	44	42	50	24	▲52.0
輸出量	126	127	128	148	178	20.3
在庫量(12月末)	80	100	95	125	135	8.0
域内消費量	1,959	2,002	2,009	2,067	2,111	2.1
1人当たり消費量(kg)	3.9	4.0	4.0	4.1	4.2	2.4

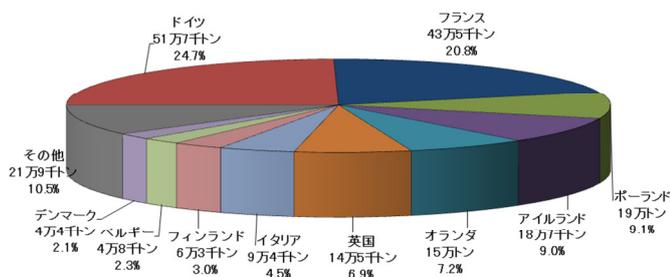
資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2017」

注1：生産量にはバターオイルを含む。

注2：2015年は暫定値。

注3：2012年まではEU27カ国。2013年以降はEU28カ国。

図4 バターの国別生産量(2015年)



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2017」

注：EU28カ国。

総生産量：209万3千トン

2015年のバター消費量は211万トンとなった。マーガリンなどの植物性油脂からバターの乳脂肪に需要が高まっており、1人当たり消費量は、同2.4%増の4.2キログラムとなった。国別では、2大生産国であるフランス(8.0キログラム)、ドイツ(6.1キログラム)での消費が多い。一方、オリーブ油など植物性油脂の消費が多いイタリア(2.4キログラム)などでは少ない(表5)。

表5 1人当たりバター消費量の推移

(単位：kg/人、%)

国/年	2011	2012	2013	2014	2015	増減率
ベルギー	2.4	2.5	2.3	2.3	2.3	0.0
ブルガリア	0.7	0.8	0.9	0.9	1.0	11.1
チェコ	4.9	5.2	5.0	5.1	5.5	7.8
デンマーク	3.9	2.5	3.9	4.9	4.9	0.0
ドイツ	6.0	6.1	5.8	5.7	6.1	7.0
ギリシャ	0.7	0.6	0.7	0.6	-	-
エストニア	4.1	2.5	1.5	2.2	1.6	▲27.3
スペイン	0.5	0.6	0.5	0.5	0.4	▲20.0
フランス	7.8	7.3	7.7	8.3	8.0	▲3.6
アイルランド	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	0.0
イタリア	2.3	2.3	2.4	2.3	2.4	4.3
クロアチア	0.6	1.0	1.0	1.2	1.6	33.3
ラトビア	2.8	2.8	2.3	2.9	2.8	▲3.4
リトアニア	2.2	2.8	2.6	3.0	3.3	10.0
ハンガリー	0.9	1.0	1.0	1.2	1.4	16.7
オランダ	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	0.0
オーストリア	5.0	5.0	5.3	5.4	5.0	▲7.4
ポーランド	4.2	3.9	4.0	4.1	4.3	4.9
ポルトガル	1.8	1.8	1.7	1.9	2.0	5.3
ルーマニア	0.6	0.6	0.7	0.7	-	-
スロバキア	2.6	3.2	3.0	3.2	3.5	9.4
フィンランド	4.1	4.5	3.7	3.2	3.3	3.1
スウェーデン	2.6	3.0	2.2	2.3	2.5	8.7
英国	3.1	3.4	3.2	2.9	3.2	10.3
EU27カ国/ EU28カ国	3.9	4.0	4.0	4.1	4.2	2.4

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2017」

注1：2015年は暫定値。

注2：2012年まではEU27カ国。2013年以降はEU28カ国。

ウ 脱脂粉乳

EUは、世界最大の脱脂粉乳生産地域であり、USDAによると、世界の生産量(477万トン、2015年)の4割弱を占める。

2015年の脱脂粉乳生産量は、輸出需要などにより、前年比6.5%増の169万トンと増加した(表6)。消費量は同4.9%増の90万トンであった。主な生産国は、フランスとドイツであり、バター同様2カ国で約5割を生産する(図5)。

2015年のEU域外輸出量は、同6.8%増の69万トンと増加した。主な輸出先は、地理的に近いアルジェリア、エジプトなどのアフリカ諸国の他、中国およびインドネシア、フィリピン、タイなどの東南アジアである。

表6 脱脂粉乳需給の推移

(単位：千トン、%)

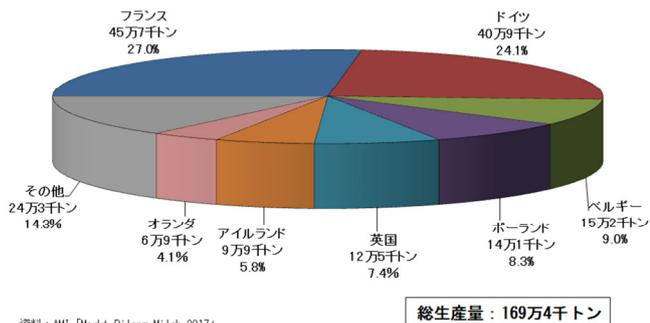
区分/年	2011	2012	2013	2014	2015	増減率
生産量	1,217	1,227	1,222	1,591	1,694	6.5
輸入量	0	2	5	2	3	50.0
輸出量	518	524	407	648	692	6.8
介入在庫量(12月末)	50	0	0	0	29	-
域内消費量	807	800	802	855	897	4.9

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2017」

注1：2015年は暫定値。

注2：2012年まではEU27カ国。2013年以降はEU28カ国。

図5 脱脂粉乳の国別生産量（2015年）



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2017」
注：EU28カ国。

エ チーズ

EUは、世界最大のチーズ生産地域であり、USDAによると、世界の生産量（約1851万トン、2015年）の過半を占める。

2015年のチーズ生産量は、東欧諸国の消費拡大により域内需要が堅調に推移したことなどから、前年比2.8%増の998万トンとなった（表7）。主な生産国は、ドイツとフランスであり、2カ国で約4割を生産する（図6）。

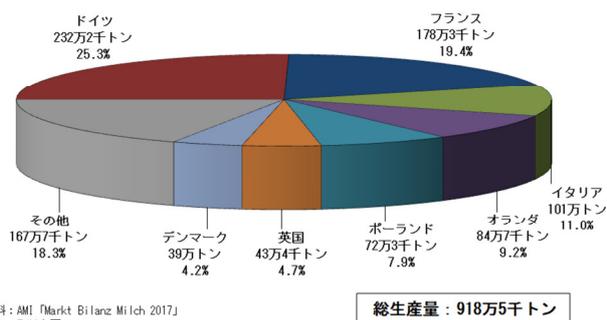
表7 チーズ需給の推移

(単位：千トン、%)

区分/年	2011	2012	2013	2014	2015	増減率
生産量	9,193	9,409	9,590	9,704	9,979	2.8
うち乳業工場(生乳原料)	8,408	8,576	8,772	8,864	9,027	1.8
農家(生乳原料)	105	105	105	105	105	0.0
その他(生乳原料)	680	728	713	735	847	15.2
輸入量	73	76	75	77	61	▲20.8
輸出量	682	778	788	721	720	▲0.1
域内消費量	8,824	8,942	9,122	9,252	9,521	2.9
1人当たり消費量(kg)	17.6	17.9	18.1	18.2	18.7	2.7

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2017」
注1：2015年は暫定値。
注2：2012年まではEU27カ国。2013年以降はEU28カ国。

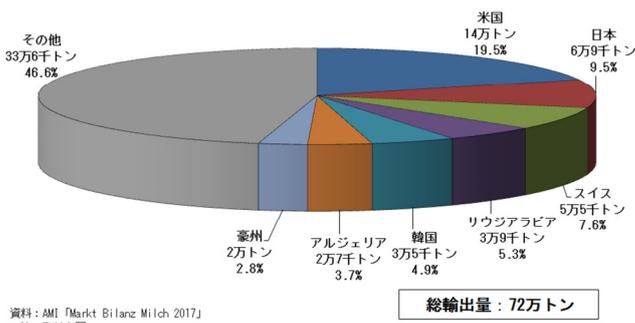
図6 チーズの国別生産量（2015年）



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2017」
注1：EU28カ国。
注2：生産のうち乳業工場生産分。

2015年のEU域外輸出量は、同0.1%減の72万トンとなった。主な輸出先は、輸出量の多い順に、米国（14万トン）、日本（6.9万トン）、スイス（5.5万トン）となっている（図7）。ロシアの禁輸措置の影響が最も大きかった品目ではあるが、ロシアに代わり他の輸出先が増加した。

図7 チーズの輸出先国（2015年）



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2017」
注：EU28カ国。

チーズの消費量は増加傾向にあり、2015年は952万トンであった。1人あたりでは18.7キログラムであるが、加盟国間でかなりの差があり、フランス（26.8キログラム）、ドイツ（24.6キログラム）などが多い一方、スペイン（8.9キログラム）などは少ない（表8）。

表8 1人当たりチーズ消費量の推移

(単位：kg/人、%)

国/年	2011	2012	2013	2014	2015	増減率
ベルギー	15.3	15.3	15.0	15.1	14.9	▲1.3
ブルガリア	15.5	15.9	16.4	15.8	15.6	▲1.3
チェコ	16.2	16.6	16.2	16.6	16.6	0.0
ドイツ	23.7	23.7	23.7	24.1	24.6	2.1
ギリシャ	24.0	22.9	22.3	22.2	-	-
エストニア	20.8	21.0	21.3	21.5	16.3	▲24.2
スペイン	9.5	9.3	9.5	9.5	8.9	▲6.3
フランス	26.1	26.1	26.2	26.7	26.8	0.4
アイルランド	10.0	10.7	10.8	11.2	13.8	23.2
イタリア	22.3	21.4	22.3	22.1	21.5	▲2.7
クロアチア	7.7	9.6	10.2	11.2	12.3	9.8
ラトビア	14.3	16.0	18.1	17.6	20.3	15.3
リトアニア	16.1	17.5	20.0	18.6	18.3	▲1.6
ハンガリー	11.0	11.5	11.0	11.6	12.9	11.2
オランダ	19.2	21.3	20.1	18.2	18.2	0.0
オーストリア	19.9	20.5	20.0	21.6	21.5	▲0.5
ポーランド	11.4	15.6	15.6	15.4	16.1	4.5
ポルトガル	9.6	9.6	9.7	10.3	-	-
ルーマニア	4.2	4.4	4.6	4.9	-	-
スロベニア	13.9	14.1	14.1	14.4	-	-
スロバキア	10.3	10.1	11.4	11.5	12.2	6.1
フィンランド	22.5	23.7	24.7	25.6	-	-
スウェーデン	19.0	19.7	19.7	20.6	20.7	0.5
英国	11.0	11.4	11.4	11.6	12.1	4.3
EU27カ国/ EU28カ国	17.6	17.9	18.1	18.2	18.7	2.7

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2017」
注1：2015年は暫定値。
注2：2012年まではEU27カ国。2013年以降はEU28カ国。

④ 生乳および牛乳乳製品の価格動向

ア 生乳生産者価格

生乳生産者価格は、リーマンショックに端を発した景気後退などを要因に、欧州酪農危機といわれた2009年前後に大きく低迷した。その後、国際需要の回復などで上昇傾向にあったが、2015年3月末のクォータ制度廃止による生乳生産の増加に加え、ロシアの禁輸や中国の需要の停滞などで市場の需給が緩和し、2015年は前年比17.8%安の100キログラム当たり30.10ユーロに下落した(表9)。

表9 生乳生産者価格

(単位：ユーロ/100kg、%)

国/年	2011	2012	2013	2014	2015	変動率
ベルギー	33.11	30.19	37.22	36.00	27.93	▲ 22.4
ブルガリア	32.66	30.54	33.67	34.58	28.54	▲ 17.5
チェコ	32.63	29.64	31.80	33.04	27.22	▲ 17.6
デンマーク	35.67	34.04	38.63	39.67	31.03	▲ 21.8
ドイツ	34.83	31.99	37.51	37.58	29.29	▲ 22.1
エストニア	32.26	30.04	33.81	32.70	23.70	▲ 27.5
ギリシャ	43.16	45.08	44.42	43.18	41.84	▲ 3.1
スペイン	31.29	30.89	34.31	35.18	30.15	▲ 14.3
フランス	31.71	30.56	33.40	35.48	30.65	▲ 13.6
アイルランド	34.33	32.29	38.31	37.82	29.98	▲ 20.7
イタリア	38.43	37.31	40.83	41.92	36.17	▲ 13.7
クロアチア	33.43	32.69	34.20	35.56	32.55	▲ 8.5
キプロス	52.07	52.69	57.52	56.50	56.50	0.0
ラトビア	29.35	27.63	30.57	29.25	21.68	▲ 25.9
リトアニア	24.90	22.91	27.40	24.85	18.69	▲ 24.8
ハンガリー	31.34	30.43	33.47	33.36	25.70	▲ 23.0
オランダ	35.65	32.87	39.68	39.97	32.29	▲ 19.2
オーストリア	34.03	32.49	36.13	38.11	32.35	▲ 15.1
ポーランド	28.51	27.83	30.85	31.63	26.44	▲ 16.4
ポルトガル	34.24	30.59	33.55	34.86	29.66	▲ 14.9
ルーマニア	24.78	24.08	26.38	27.29	25.28	▲ 7.4
スロベニア	30.47	30.14	32.30	34.67	28.33	▲ 18.3
スロバキア	31.64	29.63	32.79	33.65	27.52	▲ 18.2
フィンランド	42.70	44.97	45.88	44.27	37.59	▲ 15.1
スウェーデン	37.87	35.76	39.60	38.64	31.54	▲ 18.4
英国	30.64	33.63	36.19	37.91	32.72	▲ 13.7
EU27カ国	33.20	32.00	35.90	36.60	30.10	▲ 17.8

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2017」

注1：3.7%脂肪分のも。

ただし、フランスは3.8%、ドイツの2010年以降は4.0%脂肪分のも。

2：EU27カ国はクロアチアを含まない。

イ 飲用乳小売価格

2015年の飲用乳の小売価格は、前年を下回って推移した。一例として、ドイツを見ると、全脂乳(乳脂肪3.5%以上)の小売価格は、1リットル当たり1.05ユーロ(前年比3.7%安)であった(表10)。

表10 ドイツの飲用乳小売価格の推移

(単位：ユーロ/リットル、%)

区分/年	2011	2012	2013	2014	2015	変動率
全脂乳 (乳脂肪1.6%~3.5%)	0.63	0.60	0.70	0.74	0.65	▲ 12.2
全脂乳 (乳脂肪3.5%以上)	0.93	0.95	1.02	1.09	1.05	▲ 3.7
UHT牛乳 (乳脂肪1.5%以下)	0.55	0.52	0.62	0.68	0.59	▲ 13.2

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2017」

ウ バター卸売価格

2015年のバター卸売価格(工場渡りまたは倉庫渡し)は、生産量が消費増を上回り、需給は緩和状態にあったことから、主要国で軒並み前年を下回った(表11)。

表11 主要国のバター卸売価格

(単位：ユーロ/kg、%)

国/年	2011	2012	2013	2014	2015	変動率
フランス	3.96	3.07	4.00	3.37	3.02	▲ 10.4
ドイツ	3.97	3.06	3.95	3.36	3.01	▲ 10.4
オランダ	3.94	3.02	3.91	3.31	2.96	▲ 10.6
英国	4.04	3.14	3.99	3.37	2.99	▲ 11.4
イタリア	3.81	2.94	3.83	3.39	2.98	▲ 12.1
ベルギー	3.91	3.07	3.97	3.34	3.00	▲ 10.2

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2017」

注：工場渡りまたは倉庫渡りの価格で付加価値税は含まない。

エ 脱脂粉乳卸売価格

2015年の脱脂粉乳卸売価格(工場渡し)は、バター以上に主要国で軒並み前年を下回った(表12)。

表12 主要国の脱脂粉乳卸売価格

(単位：ユーロ/kg、%)

国/年	2011	2012	2013	2014	2015	変動率
ドイツ	2.17	2.20	2.91	2.38	1.68	▲ 29.4
フランス	2.44	2.37	3.05	2.63	1.85	▲ 29.7
オランダ	2.39	2.33	3.03	2.58	1.81	▲ 29.8
ベルギー	2.45	2.41	3.11	2.69	1.90	▲ 29.4

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2017」

注：工場渡りの価格で付加価値税は含まない。

オ チーズ卸売価格

2015年のチーズ卸売価格(工場渡し)も他の乳製品同様に前年を下回った(表13)。

表13 主要国のチーズ卸売価格

(単位：ユーロ/kg、%)

国・区分/年	2011	2012	2013	2014	2015	変動率
ドイツ エメンタール45%	5.01	4.96	5.33	5.56	5.38	▲ 3.2
英国 チェダー	3.42	3.61	3.90	3.78	3.25	▲ 14.0
ベルギー チェダー	3.44	3.19	3.74	3.49	2.79	▲ 20.1
イタリア グラナ・パダーノ	8.84	8.82	8.29	7.79	7.40	▲ 5.0
ポーランド エメンタール	3.44	3.36	3.72	3.92	3.26	▲ 16.8

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2017」

注：工場渡りの価格で付加価値税は含まない。

(2) 肉牛・牛肉産業

FAOによると、2015年のEU（加盟28カ国）の牛肉生産量は、768万トンと世界の生産量（6755万トン）の約1割を占めている。

EUは気候・地理・歴史的条件に応じて、多種多様な品種の牛（肉用種、乳用種、乳肉兼用種）が飼養されており、牛肉の生産構造や牛肉に供する牛の種類（子牛、経産牛、去勢牛、雄牛など）は、国によってかなり異なっている。EUの牛肉自給率は、2001年には103%であったが、同年のBSE問題の再燃などにより生産量が減少傾向となり、2003年以降は牛肉の純輸入地域となった。その後も2013年にアイルランドで発覚した牛肉加工製品への馬肉混入事件の影響などによる消費者離れなどがあつたが、BSE管理の徹底などにより輸出量を増加させるなどにより、2010年以降、自給率は100%前後で横ばいで推移している。

EUは、酪農が盛んな地域であり、全体のと畜頭数のうち約3分の2が乳用種となっている。そのため、酪農部門の拡大や縮小といった動向が牛肉生産量に大きな影響を与える。2015年3月末の生乳生産割当（クオータ）制度の廃止を見越して酪農部門の飼養頭数が拡大したことから、2015年の牛肉生産量は2014年に続いて増加し、前年比1.4%増となった。

① 主な政策

ア 介入買い入れ

域内の牛肉価格が下落した場合、加盟国の介入機関を通じて、一定基準を満たす牛肉を買い入れ、市場から隔離することにより、価格支持を行っている。具体的には、枝肉のEU平均市場価格が2週間にわたって1トン当たり1560ユーロの介入価格を下回る場合、介入買い入れが行われる。

イ 民間在庫補助

EU市場で、R3（形態および脂肪ともに中間に位置する）に格付けされた雄牛について枝肉基本価格を100キログラム当たり222.4ユーロと定め、EU平均市場価格が枝肉基本価格の103%を下回り、それが継続する可能性がある場合、一定量を一定期間、在庫として保

管する業者に対し、保管経費の補助が行われる。

ウ 直接支払い

2003年のCAP改革により、生産にリンクした直接支払いは、原則廃止されたが、加盟国レベルで、生産維持を目的に生産とリンクした直接支払いを実施することは可能となっている。

エ 輸出補助金

EU産牛肉の国際競争力を維持し、輸出を促進するため、輸出補助金を交付できる仕組みがある。輸出補助金の単価は、域内の市場価格と国際価格との差に基づき、品目ごと、輸出先ごとに設定される。

オ BSE関連対策

動物性たんぱく質の飼料利用の全面禁止、食肉に供される牛からの特定危険部位の除去などのBSE対策などが実施されている。講じられる対策の有効性を検証するため、72カ月齢超の食用向けの健康な牛に対するBSEモニタリング検査などが実施されている（ブルガリアおよびルーマニアは48カ月齢超）。

② 肉牛の生産動向

ア 牛飼養経営体数

EUの牛飼養経営体数は、大規模化などを背景として小規模層を中心に減少傾向にあり、2013年は228万戸と、前回調査（2010年）から13%減少した（表14）。

牛飼養経営体数は、2013年のEUの全農業経営体数（1084万戸）の約2割を占めていることから、農業経営体の約5分の1は何らかの形で牛を飼養していることになる。国別では、ルーマニア（64万戸）、ポーランド（42万戸）、フランス（18万戸）、ドイツ（13万戸）、アイルランド（11万戸）、イタリア（11万戸）が多い。

表14 牛（乳牛を含む）飼養経営体数、飼養頭数および1戸当たりの飼養頭数の推移

（単位：千戸、千頭、頭/戸、%）

区分/年	2011	2012	2013	2014	2015	増減率
牛飼養経営体数	-	-	2,279	-	-	-
飼養頭数	87,054	87,297	87,734	88,406	89,152	0.8
1戸当たり飼養頭数	-	-	38.5	-	-	-

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：飼養頭数は、12月末時点のもの。

注2：EU28カ国のデータ。

イ 飼養頭数

2015年12月時点の牛飼養頭数（乳牛を含む）は、前年比0.8%増の8915万頭であった（表14）。飼養頭数が多い国は、フランス1941万頭、ドイツ1264万頭、英国982万頭と続き、この上位3カ国でほぼ半数を占める（図8）。

2013年の1戸当たり牛飼養頭数は38.5頭で、2010年から15%増加した。種類別の牛飼養割合などは、加盟国間で違いがある（図9）。

図8 国別牛飼養頭数（2015年12月）

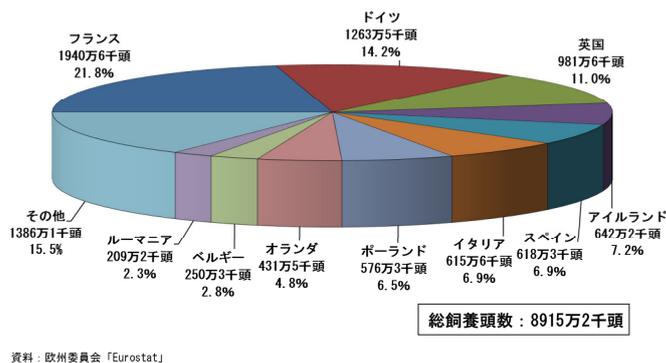
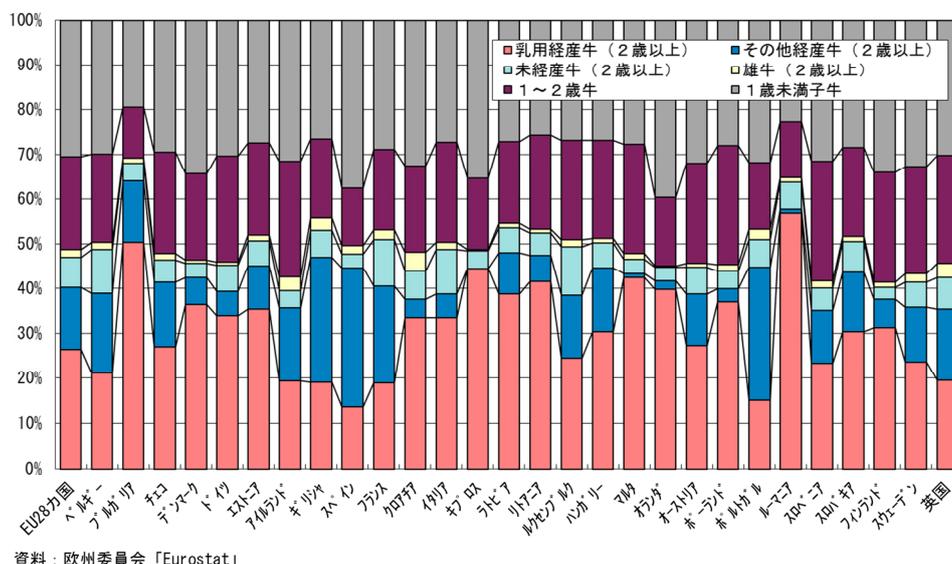


図9 国別種類別牛飼養割合（2015年12月）



③ 牛肉の需給動向

ア 牛肉生産量

2015年の牛肉生産量は、クォータ制度廃止を契機とした酪農部門の頭数拡大などの影響により、前年比1.4%増の768万トン（枝肉換算）となった（表15）。

表15 牛肉需給の推移

区分/年	2011	2012	2013	2014	2015	増減率
生産量	8,051	7,708	7,390	7,580	7,684	1.4
輸入量	286	275	304	308	300	▲2.6
輸出量	327	210	161	207	209	0.9
消費量	8,011	7,773	7,533	7,681	7,775	1.2
1人当たり消費量 (kg)	11.1	10.8	10.4	10.6	10.7	0.9
自給率 (%)	102.3	101.2	99.5	100.2	101.1	0.9

資料：欧州委員会「Short-term outlook for EU agricultural markets in 2017 and 2018」
 注1：枝肉換算ベース。1人当たり消費量は純食料ベース。
 2：輸出入量は生体牛を除く。

イ 輸入および輸出

基本的にEUの牛肉市場は需給均衡型であり、フランスやドイツなどの主要国で生産された牛肉が域内消費に向けられ、余剰分を域外に輸出するという構造である。

輸入では、ガット・ウルグアイラウンド合意に基づき、さまざまな関税割当や近隣国との特惠制度が設けられている。2015年のEU域外からの輸入量は前年比2.6%減の30万トン（枝肉換算）となった。主な輸入先は、ブラジル、アルゼンチンなどである。

輸出は、2001年のBSE問題の再燃や2002年2月の口蹄疫（FMD）の発生により、一時的にEU産牛肉の禁輸措置が講じられたことで長年にわたり減少傾向で推移してきた。しかし、2014年は、最大の輸出先であったロシアによる禁輸措置が講じられたが、

主要通貨に対してユーロ安で推移した為替相場や、経済成長により需要の高まったアフリカやアジアなど向けが増加し、また、米国市場への輸出再開や一部のEU産の日本市場への輸出解禁などがあり、2015年は合計で21万トン（枝肉換算、同0.9%増）と前年を上回った。

ウ 消費

最近の消費量は、2008年以降、域内生産量の減少による価格の上昇などから、減少傾向で推移していたが、2015年は、前年比1.2%増の778万トンと前年に続き増加した。1人当たり年間消費量も同様の傾向となっており、2015年は同0.9%増の10.7キログラムとなった。

④ 肉牛・牛肉の価格動向

2015年の牛枝肉卸売価格は、輸出需要などにより需給状況が改善し、雄牛で前年比1.3%高、去勢牛で同8.5%高となった（表16）。

表16 牛枝肉卸売価格の推移

（単位：ユーロ/100kg、%）

年/区分	牛枝肉卸売価格			
	雄牛		去勢牛	
	価格	変動率	価格	変動率
2011	350.7	9.7	352.3	13.3
2012	381.6	8.8	408.3	15.9
2013	377.9	▲1.0	437.0	7.0
2014	368.1	▲2.6	411.9	▲5.7
2015	372.9	1.3	447.1	8.5

資料：欧州委員会「CIRGABC」

（3）養豚・豚肉産業

2015年のEU（加盟28カ国）の豚肉生産量は、2326万トンと世界の生産量（1億1722万トン）の約2割を占めている（FAO）。

EUの豚肉自給率は110%前後で推移しており、純輸出地域である。中でも、わが国の主要な豚肉輸入元であるデンマークは、EU全体の輸出量の約2割を占める。EUでは、加盟国間で差があるものの、全体的に見ると食肉消費量に占める豚肉の割合は最も大きい。

EUの豚肉生産は、2007年、2012年の飼料価格の高騰などの影響を受け、増産と減産を繰り返している。2011年および2012年は、2013年のアニマルウェルフェアに関する規制の完全施行に対応するため、

一時的に生産は減少したが、2014年以降は、生産構造の変化により生産性向上が図られたことで、増加傾向となっている。規制内容は、具体的には、妊娠豚のストール飼いの禁止であり、繁殖母豚の飼養面積の拡張のために豚舎の増改築などの対応を必要とするものである。これにより、対応できない小規模農家は経営中止したり、繁殖、肥育の分業化、統廃合などが行われるなど、業界全体で生産構造の変化の動きが活発になった。

① 主な政策

ア 民間在庫補助

域内の豚肉価格が低迷した場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費の補助が行われる。2011年は、1月にドイツで豚用飼料へのダイオキシン混入が発覚したことを受け、2月に約20日間、民間在庫補助が発動され、ドイツ、スペイン、オランダなどを中心にEU全体で14万トン強の在庫が市場から隔離された。

また、2015年3月には、前年2月のロシアの禁輸措置に伴い需給が緩和したことから、3月に8週間にわたって民間在庫補助が発動され、約6万トンの豚肉が市場から隔離された。

イ 輸出補助金

EU産豚肉および加工品の国際競争力を高め、輸出を促進するため、輸出補助金を交付できる仕組みがある。輸出補助金の単価は、域内の市場価格と国際価格との差に基づき、品目ごと、輸出先ごとに設定される。なお、2008年8月以降の発動はない。

② 肉豚の生産動向

ア 養豚経営体数

EUの養豚経営体数は、飼料価格の高騰、アニマルウェルフェアの規制強化などさまざまな要因を背景として小規模層を中心に減少し、大規模化や分業化が進む傾向にあり、2013年は、前回調査（2010年）から24%減少し、219万戸となった（表17）。

養豚経営体数は、2013年のEUの全農業経営体数（1084万戸）の約2割を占めていることから、全農

業経営体の約5分の1は何らかの形で豚を飼養していることになる。養豚経営体数は、ルーマニア（128万戸）が圧倒的に多く、次いでポーランド（28万戸）、ハンガリー（13万戸）、クロアチア（8万戸）、リトアニア（6万戸）、スペイン（5万戸）となっている。小規模農家が中心となっている国で養豚経営体数が多い。

表17 養豚経営体数、飼養頭数および1戸当たり飼養頭数の推移
(単位：千戸、千頭、頭、%)

区分/年	2011	2012	2013	2014	2015	増減率
養豚経営体数	-	-	2,191	-	-	-
飼養頭数	149,809	146,955	146,242	148,331	148,716	0.3
1戸当たり飼養頭数	-	-	66.7	-	-	-

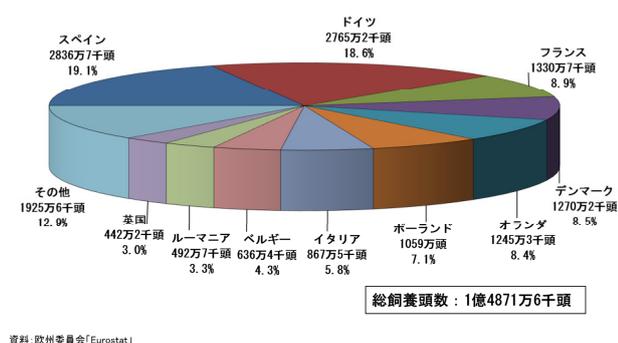
資料：欧州委員会「Eurostat」
注1：飼養頭数は、12月末時点のもの。
注2：EU28カ国のデータ。

イ 飼養頭数

2015年12月時点の豚飼養頭数は、1億4872万頭（前年比0.3%増）となった（表17）。

飼養頭数は、EU全土に分布しているものの加盟国間で大きな差があり、スペイン、ドイツ、フランス、デンマーク、オランダ、ポーランドの6カ国で全体の約7割を占めている（図10）。上位2カ国のスペインとドイツのみで約4割を占めるが、特に、近年はスペインの伸びが顕著であり、2015年は同6.8%増となり、ドイツを抜いてEU最大の豚飼養国となった。

図10 国別豚飼養頭数（2015年12月）



② 豚肉の需給動向

ア 豚肉生産量

2015年の豚肉生産量は、2014年まで豚枝肉卸売価格が高値で推移したことから生産が伸び、前年比3.2%増の2326万トン（枝肉換算）となった（表18）。

表18 豚肉需給の推移

(単位：千トン、%)

区分/年	2011	2012	2013	2014	2015	増減率
生産量	22,993	22,519	22,358	22,533	23,256	3.2
輸入量	18	20	16	14	11	▲19.6
輸出量	2,189	2,191	2,238	1,947	2,217	13.9
消費量	20,823	20,348	20,135	20,600	21,050	2.2
1人当たり消費量 (kg)	32.2	31.5	31.0	31.6	32.2	1.9
自給率 (%)	110.7	110.8	111.2	109.6	110.6	0.9

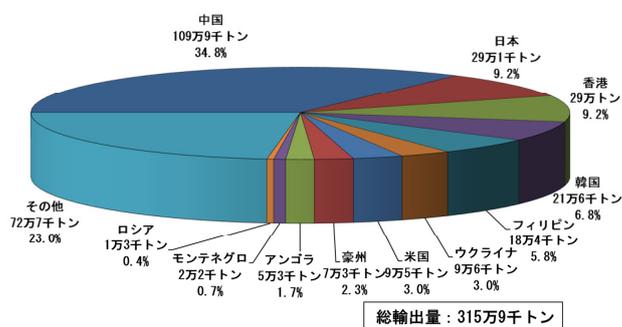
資料：欧州委員会「Short-term outlook for EU agricultural markets in 2017 and 2018」
注1：枝肉換算ベース。1人当たり消費量は純食料ベース。
注2：輸出入量は生体豚を除く。

イ 輸入および輸出

2015年のEU域外からの輸入量（枝肉換算）は、1万1000トン（前年比19.6%減）となった。

同年のEU域外への輸出量（同）は、豚枝肉卸売価格の低迷と、主要通貨に対してユーロ安で推移した為替相場などの後押しもあって、EU産豚肉に割安感が生まれたことから、増産を進めるスペインなどを中心に同13.9%増の222万トンとなった。禁輸により失われたロシア市場分を、人口増加や経済成長を続け、需要の高まっている中国をはじめとするアジアやアフリカなどへの輸出増で補完し、禁輸以前の水準まで回復した。なお、日本向けもスペインからの輸出が増加傾向にある（図11）。

図11 豚肉の輸出先国（2015年）



ウ 消費

消費量は、近年横ばいで推移しており、2015 年は前年比2.2%増の2105万トンとなった。

1人当たり消費量は、緩やかに減少傾向が続いており、2015 年は同1.9%増の32.2キログラムとなった。

③ 豚肉の価格動向

豚枝肉卸売価格は、加盟国の代表的な市場の加重平均価格をベースとして算出される。

2015年の枝肉卸売価格は、域内生産量が増加する中、ロシアの禁輸措置の影響を受け、前年に続いて下落し、前年比10.9%安となった(表19)。主要生産国であるドイツ、デンマークでもそれぞれ同10.2%安、同10.9%安と低迷した。

表19 豚枝肉卸売価格の推移

(単位：ユーロ/100kg、%)

年/区分	豚枝肉卸売価格					
	EU		ドイツ		デンマーク	
		変動率		変動率		変動率
2011	153.2	9.2	155.7	8.4	138.9	10.1
2012	170.5	11.3	173.8	11.6	157.4	13.3
2013	175.5	2.9	174.0	0.1	159.5	1.3
2014	156.6	▲10.8	158.7	▲8.8	146.2	▲8.4
2015	139.6	▲10.9	142.6	▲10.2	130.2	▲10.9

資料：欧州委員会「CIRCABC」